



し ろ や ま



令和6年度の教育課程について

2月8日(木)に今年度第3回の学校運営協議会を開催し、今年度の総括反省と学校評価、次年度の構想を話題にしていただき、貴重な意見をたくさんいただきました。委員の皆さま、今年度も本当にありがとうございました。

学校運営委員の皆様のご意見、学校評価及び教職員の反省と次年度の学校経営の方針を構想しながら、新年度の計画や準備を進めています。全体像が固まってきましたので、概略を紹介させていただきます。

今年度は、コロナ対応が一段落つき、徐々に普通の学校生活が戻ってきていましたが、酷暑・猛暑が続き、これまでにない対応を求められました。県内・市内でも熱中症による痛ましい事故や複数校での救急搬送事案が発生したために、県教委及び市教委の指導によって運動会を2度延期する事態となりました。大変ご迷惑をお掛けすることになりましたし、急な変更にご対応いただくこととなりました。改めてお詫び申し上げます。次年度に運動会については、市教委の指導により、市内小学校全校が10月に開催する予定となっております。

さて、文部科学省の諮問機関である中央教育審議会より8月に、「先生方の働き方改革の推進」と「教員がすべき業務と他がすべき業務を分ける」こと、「登校日と授業時数の減少」「学校行事の精選とスリム化」に取り組むべきとの緊急提言がありました。これを受けて、市教委から次年度200日程度での計画立案の目安が出され、本校でも次年度の登校日数を「200日程度」にしようと計画を始めました。しかし、次年度に月曜日の振り替え休日が多くあることや、6校時授業を増やさないと、本沢小の子供たちにつけたい力を最優先にした行事や諸活動の実施を計画すると、現在のところ年間「204日」の登校日の計画となっております。市内中学校の多くは200日程度の登校日で計画中のようですが、小学校の多くは206日程度での計画が進められています。

本校では「行事の精選」として、始業式・終業式・修了式などの儀式を、1時間の行事とせず朝の全校朝会の時間を使って行います。ぶどう贈呈式や青菜漬贈呈式も同様です。これで多くの時間を減らすことができます。さらに、昨年度までは1日で開催してきたウォークラリーを2時間程度に縮小して実施する予定です。

本沢らしい「明るく活発で、一人一人が生き生きと活躍できる学校づくり」に向けて、これからも全職員で取り組んで参ります。

次年度の計画立案にあたって、大切にしている考え方は以下の通りです。



- ①学力の向上に全校をあげて取り組み、協働的学びと個別最適な学びを実現する
- ②学校教育目標「豊かな心を持ち、かかわりを大切にしながら、共に生きる喜びを感じる子どもの育成」の実現を図る
- ③小規模校の強みを生かし、児童個々の活躍場面を設けると共に、異学年交流を積極的に取り入れて社会的自立を促す
- ④地域の教育材で、地域の先生をお招きしての貴重な学習体験を実施し、その活動を基にした探究的な学習として生活科・総合的な学習を充実させる
- ⑤教育活動の適正化と行事のスリム化を図り、ゆとりを生み出す



良い授業の実現を目指す「働き方改革」

教員の過酷な長時間勤務が社会的に問題視され、若者にブラックな職業として敬遠され、一時は 20～40 倍もあった教員採用試験倍率が 2 倍程度にまで低下する事態に陥っています。2 月 14 日からの中教審特別部会で教員の処遇改善に向けた議論が開始されています。これまでは基本給の 4% を「教職調整額」として全員に上乘せして支給するルールが定められていました。これは、何時間残業しても 4% 支給しかなないので、「定額制働かせ放題」とも揶揄されるものでした。全国 60 万人の教員に残業手当の支給を始めるのか、4% から 10% に引き上げる案もあって、注目が集まっています。「公務員は全体の奉仕者」ではありますが、報酬や手当が支払われない時間に仕事をすることはあってはならないことです。県の働き方改革プランⅡでは「時間外在校時間が月 45 時間以上する人をゼロにする」が令和 7 年度までの目標ですが、45 時間までならやむを得ないのかとか、45 時間分を残業手当で支給できるのかなど様々な意見が出ています。

「明日の授業準備があるから今日は遅くなる」「PTA 役員会が 19:00 から計画されている」「土曜日に子供たちが地域行事に出るから参加する」「子供たちのトラブルの解決に向けて、仕事終わりの保護者を学校に来ていただいて説明をする」「PTA・地区の歓迎会で夜の会が 19:00 から」など、夕方からの仕事や会合、来客対応などは、学校では長年にわたってあたり前にあることでした。

多くの先生方は、教師という崇高な使命感から、「子供のためなら、必要なことは時間を惜しまずにやる」「子供のために、時間をかけてでもやり遂げる」という思いで全員が仕事に向かっています。使命感があることは望ましいですし、子供の成長の姿は何物にも代えがたい喜びでもあります。しかし、先生方が体調を崩したり、精神的につらくなったり、病気になったりするケースが年々増加しており、令和 4 年度に精神疾患で休職した公立学校の教員は全国で 6,500 人もいる非常状態になっています。また、せっかく教員になっても、数年で退職するケースも後を絶ちません。

私は中学校勤務が長いので、毎日部活動をしてきました。様々な大会に参加しますので、19:00 まで延長活動を日常的にしており、部員を見送り、後片付けや戸締り、消灯して職員室に戻るのは 19:30 ごろで、その後で授業準備や様々な仕事を行いました。週末は練習試合や遠征、合宿や各種大会への参加もしていますので、夜まで学校にいることや、週末に部活動をするのが普通の生活でした。週明けはさすがにつらい時もありましたが、部員には、「部活動を理由に遅刻・欠席・宿題忘れをしたら活動はしない」と宣言していたので、顧問も必死でした。今振り返ると、練習を重ねて上達する姿、どんどん強くなっていく部活動の指導は楽しかったし、やりがいがありました。部活動だからできることがあり、貴重な体験によって子供たちを成長させているとの自負もありました。一方で、家族のことを考えたり、家族と一緒に過ごしたり、自分の時間を充実させたり、休養を取ったり、リフレッシュしたり、十分な授業の準備をしたりすることはどうしても疎かになります。保護者の皆様や子供たちをも「勝つため」を優先しすぎてしまい、部活動に縛りつけていたのかもしれない…。

今は考え方を変える時代です。忙しい中で先生が疲弊して、元気がなく、社会人として生き生きと仕事に励む姿を見せられないようではいけないのです。将来を展望し、夢の実現に向けて努力を続ける「子供の手本」にならなければいけないのです。先生を目指す子供が急激に減少しており、魅力を感じられないのが現状です。先生全員が日々の生活の質を向上させ、人生を豊かにし、人間性や創造性などの人間としての幅を広げることが必要です。自分や、自分の家族との時間を豊かにすることができない先生には、子供たちのことを親身に考え、家族の思いに立って指導することはできないのです。上手に週末を過ごし、リフレッシュして新しい週を迎え、良い授業・わかる授業をする姿こそが求められるのです。

本沢小学校は、「授業・学習指導を大切にする」「学校を活気づけ、元気にする」「先生方の心身の健康」のために、働き方改革を進めていきます。

◇令和 5 年度本沢小学校 教員の勤務時間について

8:30～17:00 (電話対応可能時間 8:00～18:00)

